

Scoop

2005年 8月

bB後継車

トヨタ

パッソ・ベースでお手頃感が高まりアメリカン風味にもいっそう磨きかかる

[↑ zoom](#)

高いウエストラインをそのままに全高がやや下げられ、薄いグリーンハウスによってアメリカン・レトロな雰囲気強調されるbB後継車。ノーズの厚みが押し出しの強さと迫力アップに貢献している。

それにしても今回のトヨタ・ブースは市販予定車のオンパレードだ。キープコンセプトのエスティマ、北米マーケットをにらんで大きくなるRAV4、そしてトヨタらしからぬ思いきったデザインを受け継ぐbB後継車。確か4年前、01年のショーもアリオン／プレミオやノア、ist、マーク髙ブリットといった市販直前のクルマが目白押しだったけど、インパクトの面では今回の3車も負けてはいない。

トヨタ・ブースをじっくりと歩き回って最後に見に来たのがbB後継車だ。パッソ／ブーンのシャシーが流用されて（とは言っても伸ばされているが）開発されているらしいけど、現行モデルに見劣りしない存在感がにじみ出ているのは遠目にもわかった。現行bBはヴィッツ・ファミリーの一員としてファンカーゴと並ぶ背高ワゴンに位置づけられてきたけど、後継車はダウンサイジングが図られてファンカーゴ後継車のラクティスよりクラス的には下に格付けされる。同じような大きさの背高ワゴンを同一マーケットに投入するよりも、小さめのクルマも用意することでカバーできるユーザー層が広がると考えたのだろう。さすがはトヨタだ。

相変わらずの四角いフォルムは個性的だし、水平基調のノーズが先端で円弧を描いている点など、アメリカンな雰囲気にも拍車がかかっている。以前「bB後継車はPTクルーザー似」とのスクープ記事をMAG・Xで読んだけど、確かにノーズの曲線は古きよきアメ車のイメージにも似ている。ヘッドランプも引き続き横長デザインだけど、ボンネットフードの円弧に合わせて厚みが生じているのが目新しい。

平べったいボディ側面は、黙って見せられてもbB後継車と言い当てられるくらい、キャラクターを受け継いでいる。グリーンハウスは低く、ちょうど“ショップド・ルーフ風”にデザインされていて、現行モデルのズボヘンとした背高シルエットはどこにも見当たらない。これが後継車と現行モデルの最大の違いだ。

エクステリア全体が単調にならないように、ヘッドランプの目尻から前後ドアを貫くようにプレスラインが設けられている点も新しい。5ナンバー幅のコンパクトカーながら、ここに段差を設けてボディ下半分のボリューム感を向上させているのはウマイかも。

シャシーがパッソ／ブーン系ということは、当然エンジンやサスペンションにも同じものが流用されることが想像つく。ノーズに収まっている小排気量ユニットは1リットル直3か1.3リットル直4で、フロントにはストラット式、リアにはトーションビーム式のサスペンションが使われているはずだ。ショーモデルは華やかな演出も兼ねて大径アルミホイールで踏ん張り感を強調してるけど、市販版に設定されるのはせいぜい14インチまで、かな。

そう言えば、開発作業の大半はダイハツが担当しているとのウワサで、恒例のトヨタ&ダイハツ合同ブースは、こういった共同開発車を展示するうえでも都合がいいのかもしれない。F1マシンも並べるなど、トヨタが若年層の気を引こうと必死になっているのはブース全体の演出だけでなく、このbB後継車のようなエネルギーあふれる参考出品車からも伝わってくる。

内装は遮音材すら節約されているものの、デザインは斬新
逆U字モチーフのインパネ



↑ zoom

bB後継車に与えられるインパネは上面が逆U字型にデザインされ、広々感をもたらされる。空調ダクトの横に置かれるスピーカーにも注目。シフトレバーなどはパッソから流用される。

免許を取得したばかりの初心者にも運転しやすいサイズと、若者受けしそうな外観デザインがbB後継車に与えられるのは前ページで報じたとおり。スクープ班では外観だけにとどまらず、インテリアに関する極秘情報も同時につかんだ。

ドアを開けてまずビックリするのが斬新なインパネ造型だ。先進的なセンターメーターや複雑な曲面を多用したセンタークラスターなど、これまでも衝撃的なインパネを引っさげて現れたクルマは数多いが、bB後継車の何がスゴイって、インパネ上面が逆U字をモチーフにデザインされていることだ。そこには、まるで逆U字型のパイプが横たわっているかのようにも見える。さらに、乗員の斜め前方に位置する断面には空調ダクトとスピーカーが並べられ、ゴキゲンなサウンドと快適な風が同じ方向から乗員に向かって注ぎ出される。

ショーモデルは造型を際立たせるため、上面に目を引く色が塗装されるという。ただし、フロントウインドウへの映り込みが懸念されるので、市販時には黒基調のシック&シンプルな色合いになるはずだ。上面に凝った造型が用いられる反面、操作系が配置されるセンタークラスターはシンプルで使いやすいデザインにまとめられる。パッソ／ブーンの面影も見えるダイヤル式空調パネル、2DINオーディオスペース、上端に位置するセンター空調ダクトなど、見慣れた要素が整然と並ぶ。また、シフトレバーはコラム置きとなる見込みだ。

b B後継車が若者を狙っていることはシートの機構からも感じ取れる。新たに装備される“まったり”シートはその名のとおり、シートが後方に傾いて停車時に“まったり”できるというもの。リクライニングと同時にシートクッションも後方に傾く、と言えはわかりやすいだろうか（ちょっとズッコケっぽい態勢だが・・・）。

遮音材が少なく、静粛面での快適性が軽視されているのもbB後継車の特徴だ。これはウーハーをはじめ、高価なオーディオを後付けしてズンドコ響かせる傾向が若年ユーザーにあるため、従来どおり遮音材を装着してもあまり意味がないと判断されたから。確かに音楽がズンドコ鳴り響いていれば、エンジン音が気になることもないのだろう。結果的にコストが削減できるといったメリットも生じているに違いない。

コンセプトカー・グラフィティ



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

●ファンカーゴ 〈97年〉

すでに市販される2年前に、ほぼ外観デザインができ上がっていたことを証明するショーモデル。リアドアのない3ドアボディがパーソナル感を強調していた。リアコンビランプのデザインは市販版に踏襲。

●オープンデッキ 〈99年〉

当時、開発中だったbBをベースに仕立てられた多目的ピックアップ。助手席側の観音開きドアや開閉式バックウインドウなど、いかにもショーモデルらしい出で立ちだったが、その後、01年6月に市販化された。

はみ出し情報 その1

bB後継車の開発コードは210L。文中では搭載エンジンが1リットルまたは1.3リットルと述べているが、1.5リットルが設定される可能性もある。新型モデルは北米には輸出されず、国内専売となる見込みだ。

はみ出し情報 その2

03年にポルテがNLSVを名乗って出品された時のように、bB後継車もショー出品時にはフロントマスクやリアコンビランプなど、ディテールがコンセプトカー風に仕立てられる可能性あり。



許可無く複製転載する事は法律に禁じます。
COPYRIGHT (C) SAKAI-SHOBOU, INC & MOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED

視線移動量の少ないセンターメーター

丸型空調ダクト&
スピーカー

パッソ/ブーンと同じ
コラムAT

使いやすい
ダイヤル式空調パネル



前席が後方に傾いて上向き

“まったり”シート



許可無く複製転載する事は法律に触れます。
COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & WOOKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED



